

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」稲田堤校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		一度に受け入れる人数を制限しています。	
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	<input type="radio"/>		支援スペースを見て分かりやすいように、表示を各スペースに掲示しています。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<input type="radio"/>		毎日の業務として、清掃活動を行っています。	
業務 改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			サービス担当者会議を開催する機会を増やしていきます。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			評価を受け、保護者の方のご意見を支援に反映させていきます。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>		現在は利用者と社内の2者評価をとって業務改革につなげています。現在予定はありませんが、必要に応じて実施を検討します。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		定期的に事例検討会や研修会に参加しています。	
適切 な 支 援 の 提 供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		保護者の方と面談を行い、児童の現状を把握するようにしています。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		統一したアセスメントシートを使用しています。お子さまの状態を把握するために随時サービス担当者会議も開催しています。	

	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			児童一人ひとりの課題や目標をアセスメントし、その子に合った計画書の作成をするよう努めています。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画書に示された目標から、支援内容を全体で検討し、支援を行っています。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングを行う時間を設定し、支援内容の検討を行っています。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			児童によっては、小集団の活動を必要とすることもあるので、その場合には、支援計画書にも反映させるようにしていきます。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			曜日によって打ち合せ時間の確保が難しい日もあるので、前日等に打ち合わせを行えるように設定しています。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		児童の様子や、その日の支援の成果を共通理解できるようにしています。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の様子を各職員が、誰が見ても分かるような記録をしています。	
	⑳	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングを行い、児童の変化や成長を把握し、支援内容の変更や修正を行っています。
関係機関 関 や 保 護	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者をはじめ支援に関わる全てのスタッフがお子さまの情報を把握するチーム支援を展開しています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		利用者に関係する機関（園・学校・療育センター）と定期的	

者との連携関係機関や保護者との連携				に情報交換をしています。	
	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当者なし
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当者なし
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		入園予定の園との面談を、保護者の方の同意の上で行っています。
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	現状では行えていませんが、今後は学校との連携を行えるように努めていきます。
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	
㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		

	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		参加する機会があれば、積極的に参加していきます。
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		支援後の振り返りを行い、児童の成長の様子や、現在の課題などについてお伝えするようにしています。
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		
	保護者への説明責	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○	
㉚		児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている		○		支援計画の内容を、保護者の方と一緒に確認し、必要に応じて変更・修正を行っています。
㉛		定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている		○		モニタリング時期、その他にも随時保護者

任 等				様からの相談を受け付けています。相談内容を踏まえた上で支援内容を調整させて頂くこともあります。		
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		ご要望に応じて保護者会などの開催を検討していきます。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している		○		
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		事業所内広報と、保護者向けの広報を分け、掲示・配布をしています。
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している		○		
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		お子さまや保護者様の状況に応じて ICT やその他視覚的情報などを活用し意思疎通・情報伝達等を実施しています。
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		近隣の施設の方を招いて、折り紙教室を開催しました。
非 常 時 等 の 対 応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		マニュアルを策定し、研修を実施しています。
	④2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		月 1 回の避難訓練を実施しています。
	④3	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○		
	④4	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				該当者なし
	④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハット事例がおこった際には、ヒヤリハット報告書を作成・保管し職員間で共有しています。

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に虐待防止研修を実施しています。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		保護者の方に事前に承諾を得るようにしています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」稲田堤校 保護者等数（児童数） 11人 回収数 6 割合 55%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5			1	少し狭いように感じることがある。	支援人数を今後調整し、一人ひとりの児童がのびのびと活動できるように配慮していきます。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	5	1				
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	4	1		1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	6				注意力が散漫にならないような配慮がされている（支援スペースの整頓等）	
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	5	1				
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4	1		1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	6					
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	1		2	3		
保護者への説明	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	6					

明 等	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2	1		3		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	5	1				
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	1		1		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			2	4		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	5	1				
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	3	2		1		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	6					
非 常 時 等 の 対 応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	2		1			
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	3		1	3		
満 足 度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	6				子どもが楽しみに通えているので、安心しています。	
	㉓	事業所の支援に満足しているか	5	1				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。